

**[D年] 三位一体主日(2024年5月26日)**

**【旧約聖書日課】 イザヤ書 40章12～17節**

12 手のひらにすくって海を量り

手の幅をもって天を測る者があるか。

地の塵を升で量り尽くし

山々を秤にかけ

丘を天秤にかける者があるか。

13 主の霊を測りうる者があるか。

主の企てを知らされる者があるか。

14 主に助言し、理解させ、裁きの道を教え

知識を与え、英知の道を知らせうる者があるか。

15 見よ、国々は革袋からこぼれる一滴のしずく

天秤の上の塵と見なされる。

島々は埃ほどの重さも持ちえない。

16 レバノンの森も薪に足りず

その獣もいけにえに値しない。

17 主の御前に、国々はすべて無に等しく

むなしくうつろなものと見なされる。

**【使徒書日課】 テモテへの手紙一 6章11～16節**

11しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。12信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。命を得るために、あなたは神から召され、多くの証人の前で立派に信仰を表明したのです。13万物に命をお与えになる神の御前で、そして、ポンティオ・ピラトの面前で立派な宣言によって証しをなさったキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。14わたしたちの主イエス・キリストが再び来られるときまで、おちどなく、非難されないように、この掟を守りなさい。15神は、定められた時にキリストを現してください。神は、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、16唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、だれ一人見たことがなく、見ることのできない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。

**【福音書日課】 ヨハネによる福音書 14章8～17節**

8フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、

9イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。

わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。10わ

たしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言

う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられる

のである。11わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。

もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。12はっきり言っておく。わたしを信じる

者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行く

からである。13わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によ

って栄光をお受けになる。14わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

15「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。16わたしは父にお願いしよう。

父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。17この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうと

もしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊が

あなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

## 「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

## イザヤ書 40章12～17節

- 12 誰が手のひらで水を量り  
手の幅で天を測り  
升〔直訳→三分の一尺度〕で地の塵を量り  
天秤で山々を  
秤で丘を量ったか。
- 13 誰が主の霊を計り  
助言者として主に教えたのか。
- 14 主は誰と相談し、悟りを得たのか。  
誰が主に公正の道を教え  
知識を教え、英知の道を知らせたのか。
- 15 見よ、諸国民は手桶の滴のように  
天秤の埃のように見なされる。  
見よ、主は鳥々を  
細かい塵のように持ち上げられる。
- 16 レバノンに燃やすには十分ではなく  
その生き物も焼き尽くすいけにえには  
十分ではない。
- 17 諸国民は皆、主の前では無に等しく  
主にとってはおうつろであり  
空しいものと見なされる。

## テモテへの手紙一 6章11～16節

11しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。12信仰の戦いを立派に闘い抜いて、永遠の命を獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で立派な告白をしたのです。

13万物を生かす神の前で、そして、ポンティオ・ピラトの面前で立派な告白をして証したキリスト・イエスの前で、あなたに命じます。

14私たちの主イエス・キリストが現れる時〔直訳→の顕現の時〕まで、落ち度なく、非難されないように、この戒めを守りなさい。15神は、定められた時にキリストを現してください。神は、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、16唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、誰一人見たことがなく、見ることのできない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。

## ヨハネによる福音書14章8～17節

8フィリポが、「主よ、私たちに御父をお示しく下さい。そうすれば満足できます」と言うと、  
9イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、私が分かっているのか。私を見た者は、父を見たのだ。なぜ、『私たちに御父をお示しく下さい』と言うのか。10私が父の内におり、父が私の内におられることを、信じないのか。私があなたがたに言う言葉は、勝手に〔直訳→自分から〕話しているのではない。父が私の内におり〔直訳→とどまり〕、その業を行っておられるのである。11私が父の内におり、父が私の内におられると、私が言うの信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。12よくよく言っておく。私を信じる者は、私が行う業を行うだろう。そればかりか、もっと大きなことを行うであろう。私が父のもとへ行くからである。13私の名によって願うことを何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。14私の名によって願うことは何事でも、私がかねえてあげよう。」

15「あなたがたが私を愛しているならば、私の戒めを守るはずである。16私は父にお願いしよう。父はもうひとりの弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。17この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、それを受けることができない。しかし、あなたがたは、この霊を知っている。この霊があなたがたのもとにおり〔直訳→とどまり〕、これからも、あなたがたの内にいるからである。」

**黙想のためのノート****次主日の教会暦と聖書日課**

・5月26日「三位一体主日」の日課主題は「真理の霊」。西方教会の伝統的な教会暦の中に位置づけられる「三位一体主日」は、「聖霊降臨日」に続く主日に設定されてきた。これは、10世紀ごろから一部地域で記念され始め、14世紀になって祝日として定められた。「三位一体」は、ローマ帝国支配下でキリスト教が公認された4世紀、皇帝の命により各地の教会指導者が招集されて開催されたニカイア公会議で採択された「ニカイア信条」で定式化された神論に基づく神の呼称。以来、東方および西方の主流正統教会が「正統と異端」を峻別する基準として用いてきたが、19世紀以降のキリスト教の多様化の中で必ずしも「三位一体」を教理として掲げない教会も生まれてきている。

・旧約聖書日課は、「イザヤ書」から、不変の「神の言葉」に基づく創造の御業を提示する箇所。使徒書日課は、「テモテへの手紙一」から、唯一の神の支配のもとで「掟」を守りながらキリストの再臨を待つべきことを教える箇所。福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、御父と御子が言葉と業とにおいて一つであること、また真理の霊の授与によって弟子たちも一つにされることを主イエスが告げる箇所。

**旧約日課(イザヤ 40 章より)**

・「イザヤ書」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「後の預言者」の第一に置かれた預言文書。前8世紀の南王国ユダで宮廷預言者として仕えた祭司イザヤの名を冠しているが、「イザヤの預言」に直接帰すると考えられるのは39章までで、40章以下は、前6世紀のバビロン捕囚～解放の時代に「ユダヤ宗教共同体」の構築に携わった祭司・預言者集団が「イザヤ」を「祭司＝預言者」の模範とする観点から告げた預言集として編纂されていると考えられる。40章以下は、「第二イザヤ」と呼んで区別されてきた。「第二イザヤ」の預言思想は、永遠不変の「神の言葉」を基軸とする神学と、「主の僕」と呼ばれる「神の言葉」の宣教者論とが、主要な骨格を成している。

・日課箇所は、「第二イザヤ」の最初の章で、まず「神の言葉」の宣教者像が提示された上で、「神の言葉」の不変性に基づく御業の普遍性が描かれていく箇所。神の創造の御業の普遍性を描くことを通して、「国々」の支配を相対化し、主なる神の支配のもとで事実上それらを無力化して見せている。「第二イザヤ」編纂の背景には、当時、古代オリエント史上で過去に類を見ない広範な支配を確立したペルシア帝国の現出という現実があった。ペルシア王キュロスは、当時メソポタミアからエジプトまでを支配下に置いていたバビロニア王国を無血征服し、西はエーゲ海、南はエジプト、東はインド北部に至る広大な帝國的支配を実現し、諸国間の紛争を終結させていた。キュロス王は、「主が油注がれた人」(45:1)と称されている。

**使徒書日課(Ⅰテモテ 6 章)**

・「テモテへの手紙一」は、「パウロ書簡集」に収められた書簡文書の一つで、「手紙二」および「テトスへの手紙」と共に「牧会書簡」と呼ばれている。使徒パウロが、協力者である若き宣教者テモテに宛てて、教会指導上の助言を述べ教える内容となっている。これらの「牧会書簡」について、現代の聖書学者の中には、使徒パウロ自身の執筆と認めず、後継者が「パウロ」の名によって記したものであるという意味で「第二パウロ書簡」と呼ぶ者もあるが、歴史的には「パウロ書簡」として正典に数えられ、読まれてきた。つまり、新約正典で示される「パウロ」および「テモテ」の実像を前提にして、本書簡は教会で読まれてきた。

・書簡の宛先である「テモテ」は、「使徒言行録」16章でパウロがバルナバから独立して組織した宣教団の新しいメンバーとして登用された一人として紹介されている(使徒 16:1~2)。それによると、彼は、ユダヤ人の母親とギリシア人の父親を持つが、そのときまで割礼を受けずにいたが、キリスト者の共同体には参加していたと考えられる。「テモテへの手紙二」1:5には、彼の母親と祖母が信者であったという記述があり、彼女らはユダヤ人として教会共同体に参加し、そこにまだ幼少のテモテも同行してきていたのだと考えられる。パウロらの宣教活動で形成された教会共同体では、異邦人が割礼を経ずに洗礼のみで共同体メンバーに加えられていたため、テモテがユダヤ人の母親を持ちながら無割礼であることは問題とされていなかったのだろう。しかし、「使徒言行録」は、パウロの宣教団に加入するに際して、彼が割礼を受けたとしている(使徒 16:3)。パウロは、「ガラテヤの信徒への手紙」の記述などから「割礼」を全否定していたように誤解されることがあるが、彼が主張していたのは「救いの共同体に加えられるために割礼は不要」ということであり、「割礼が必須」とする主張に反対していたのである。テモテは、複数の「パウロ書簡」で共同執筆者として名を連ねており、またパウロの代理人として諸教会間を行き来していたことが推認される。他方で、本書簡では、彼がいずれかの地域教会共同体に一定期間定住して指導していたことが前提とされているが、具体的にどこであったかは確認できない。

・日課箇所は、本書簡末尾に置かれた「最後の勧告」の一部。教会形成についてではなく、宣教者としての心構えについて教えている。ここでは、宣教者として「信仰を表明」する宣教活動を、ピラトの面前で語られたキリスト・イエスに倣ったものと位置づけることで、励ましを与えている。

・12節「立派に信仰を表明した」の直訳は、「善き表明(ホモロギア)を表明した(ホモロゲオー)」。「ホモロゲオー／ホモロギア」は、「公に言い表す」(ロマ 10:9~10)とも訳される語で、原義は「一つのことを言う」。一致した、または一貫した「(信仰)告白」を意味する用語として、教会で用いられてきた。

・15節「掟」は、ギリシア語「エントレー」の訳語で、「命令／指示」とも訳されるが、聖書協会共同訳ではもっぱら「戒め」と訳されている。「パウロ書簡集」では、ロマ7章で集中的に用いられているが、全体として用例は少なく、ロマ13:9の用例のように「十戒」に代表されるような「戒め」を指して用いられており、またその位置づけも基本的には福音書の示す主イエスの用例に沿っているとみなせる。

### 福音書日課(ヨハネ 14章より)

・日課箇所は、主イエスが「最後の晩」に弟子たちとの対話で語られた一連の教えの中の一部。前週の福音書日課に先行する箇所、15～17節は重複している。重複箇所では、「真理の霊」が、主イエスの昇天後に御父のもとから遣わされる「弁護者」として永遠に弟子たちと共にあることが示されているが、その前提として、御父と御子イエスが「言葉と業」とにおいて一致していること、また御子が従う者たちを御父へと至らせる存在であることが示されている。本福音書全体では、この前提として述べられている事柄が主要な救済観として基礎づけられており、「真理の霊」に関する観念は二義的に付加されたものと推察される。

・対話相手として名が挙げられる「フィリポ」は、共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)でも「十二弟子」の一人として名が挙げられている弟子であるが、具体的な叙述は「ヨハネ福音書」に限定される。本福音書では、唯一、主イエスが直接「わたしに従いなさい」と呼びかけた弟子として描かれるほか(1:43)、「パンの出来事」の中で主イエスに問われる弟子として(6:5～7)、またエルサレムで主イエスを訪ねて来たギリシア人を仲介したでしとして(12:21～22)、登場させられている。「使徒言行録」8章で、使徒ヨハネらに先行してサマリア伝道を行った「フィリポ」と同一視する者もあるが、確かなことは分からない。本福音書が「フィリポ」を繰り返し登場させるのは、ペトロらを中心に主イエスの教えを伝え描く「共観福音書」史観に対して、「ヨハネの教会共同体」が異なる光を当てることを試みているのであろう。「フィリポ」は、特にペトロらと同じベトサイダ出身者(漁師?)とされており(1:44)、象徴的である。

### 来週の誕生日 (5月26日～6月1日)

#### 主日礼拝の讃美歌から

・21-351 番「聖なる聖なる」(I 66)は、19世紀初頭に英国教会司祭として詩作に活躍した R・ヒーバーが「三位一体主日」のために作詞。曲は、この歌詞のために19世紀に教会音楽家として活躍した英国教会司祭 J・B・ダイクが作曲し、「NICAEA(ニケア)」の曲名が付されている。

・21-417 番「聖霊によりて」(=□95番、□31番「みたまによりて」)は、おそらく1960年代にルター派の P.ショルテスによって青年伝道用に作詞作曲された讃美歌。収録歌集にはギターコードが付されている。

・21-500 番「神よ、みまえに」(= I 58 番歌詞)の歌詞は18世紀英国の W.ハモンドの作詞。彼は、当初はメソジスト派で、後にモラヴィア派に転じて、讃美歌の作詞・訳詞を手掛けた。旧 58 番とは異なる曲をホーリネス派の文屋知明が作曲して付されている。

#### 21-351「聖なる聖なる」

### Holy, Holy, Holy, Lord God Almighty

1. Holy, holy, holy! Lord God Almighty! / Early in the morning our song shall rise to thee. / Holy, holy, holy! Merciful and mighty, / God in three persons, blessed Trinity!
2. Holy, holy, holy! All the saints adore thee, / casting down their golden crowns around the glassy sea; / cherubim and seraphim falling down before thee, / which wert, and art, and evermore shalt be.
3. Holy, holy, holy! Though the darkness hide thee, / though the eye of sinful man thy glory may not see, / only thou art holy; there is none beside thee, / perfect in power, in love and purity.
4. Holy, holy, holy! Lord God Almighty! / All thy works shall praise thy name, in earth and sky and sea. / Holy, holy, holy! Merciful and mighty, / God in three persons, blessed Trinity.

#### 21-417「聖霊によりて」

### We are One in the Spirit

1. We are one in the Spirit, we are one in the Lord. / We are one in the Spirit, we are one in the Lord. / And we pray that all unity may one day be restored, / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
2. We will walk with each other, we will walk hand in hand. / We will walk with each other, we will walk hand in hand. / And together we'll spread the news that God is in our land. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
3. We will work with each other, we will work side by side. / We will work with each other, we will work side by side. / And we'll guard each man's dignity and give up all our pride. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
4. So all praise to the Father from whom all things come. / And all praise to Christ Jesus, His only Son. / And all praise for the Spirit who makes us one. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.

#### 21-500「神よ、みまえに」

### Lord, we come before Thee now

1. Lord we come before Thee now, / At Thy feet we humbly bow: / O do not our suit disdain; / Shall we seek Thee, Lord, in vain? / Shall we seek Thee, Lord, in vain?
2. Lord, on Thee our souls depend, / In compassion now descend: / Fill our hearts with Thy rich grace, / Tune our lips to sing Thy praise, / Tune our lips to sing Thy praise.
3. In Thine own appointed way, / Now we seek Thee; here we stay, / Lord, we know not how to go, / Till a blessing Thou bestow, / Till a blessing Thou bestow.
4. Send some message from Thy word, / That may joy and peace afford; / Let Thy Spirit now impart / Full salvation to each heart, / Full salvation to each heart.
5. Comfort those who weep and mourn, / Let the time of joy return; / Heal the sick, the captive free, / Let us all rejoice in Thee, / Let us all rejoice in Thee.